

千葉支部 2023 年度 第 2 回資格更新研修会 報告

2023 年 10 月 22 日(日)13 時～16 時 20 分

対面による研修会 参加者 34 名

人権を守り、一人ひとりを大切にする支援

—学齢期を中心に成人へのつながりを意識した支援について—

講師 野澤 和弘 先生 (植草学園大学)

今年度の第1回研修会では、不適切な保育をめぐる、子どもの最善の利益や権利擁護、他機関や他の専門職との連携の方法などの観点から、不適切な保育をどのように理解し、保育の質を高めていくとよいのかを考えました。今回の研修では、さらに学童期を中心に成人までも視野に入れつつ、ジャーナリストとして、また厚労省の委員などを通して、児童や障害児者への虐待等、日本の政策にも深くかかわってこられた野澤和弘先生にご講演をいただきました。

子どもの数が減っていく一方で、児童虐待をはじめ子どもが被害者となる事件等の件数が増えています。構造的な問題に加え、障害児者への虐待の問題では、さらに被害者側の声が見えにくくなってしまいます。障害児者の行動の問題は、それを「させない」方向への関わりが選択されてしまうことがあります。障害者施設での虐待を防止する上で、支援に関わる側が、支援から虐待へと至っていくグレーゾーンに気づき、自らの中に潜む芽にどう対峙するかが問われます。

次に、いくつかの施設等における行動の問題への取り組みの例が紹介されました。激しい自傷行為などを拘束によって抑止するのではなく、その行為がどのような意味をもっているのかを職員間で考え、試行錯誤の末にビートの激しいロックの音楽を聴くことで軽減されていった例、行動の問題が起きるきっかけを探し続け、満月の時期に生じることに気づき、その時期の環境を整えていった例、そして、障害のある子どもの父親でもあるご自身が体験された親子間のトラブルの背景について、何を訴えようとして選択された行動だったのかと何年も自らに問い続けている例…。問題とされる背景には、それまでの人生において培われてきた外から見えない感覚や記憶に動かされていることもあります。その人にとっての意味を理解しようと丁寧に時間をかけながらも、正解の見えにくい中で様々な形の対話を続ける覚悟を問われた時間となりました。

障害があるために「配慮や支援を要する人」という見方の前に、人としての当たり前の実現と一緒に考えていけるよう、自らの障害観、障害者観を問い直していくことが必要であり、より多くの会員と共有したい研修内容でした。

(堀 彰人)